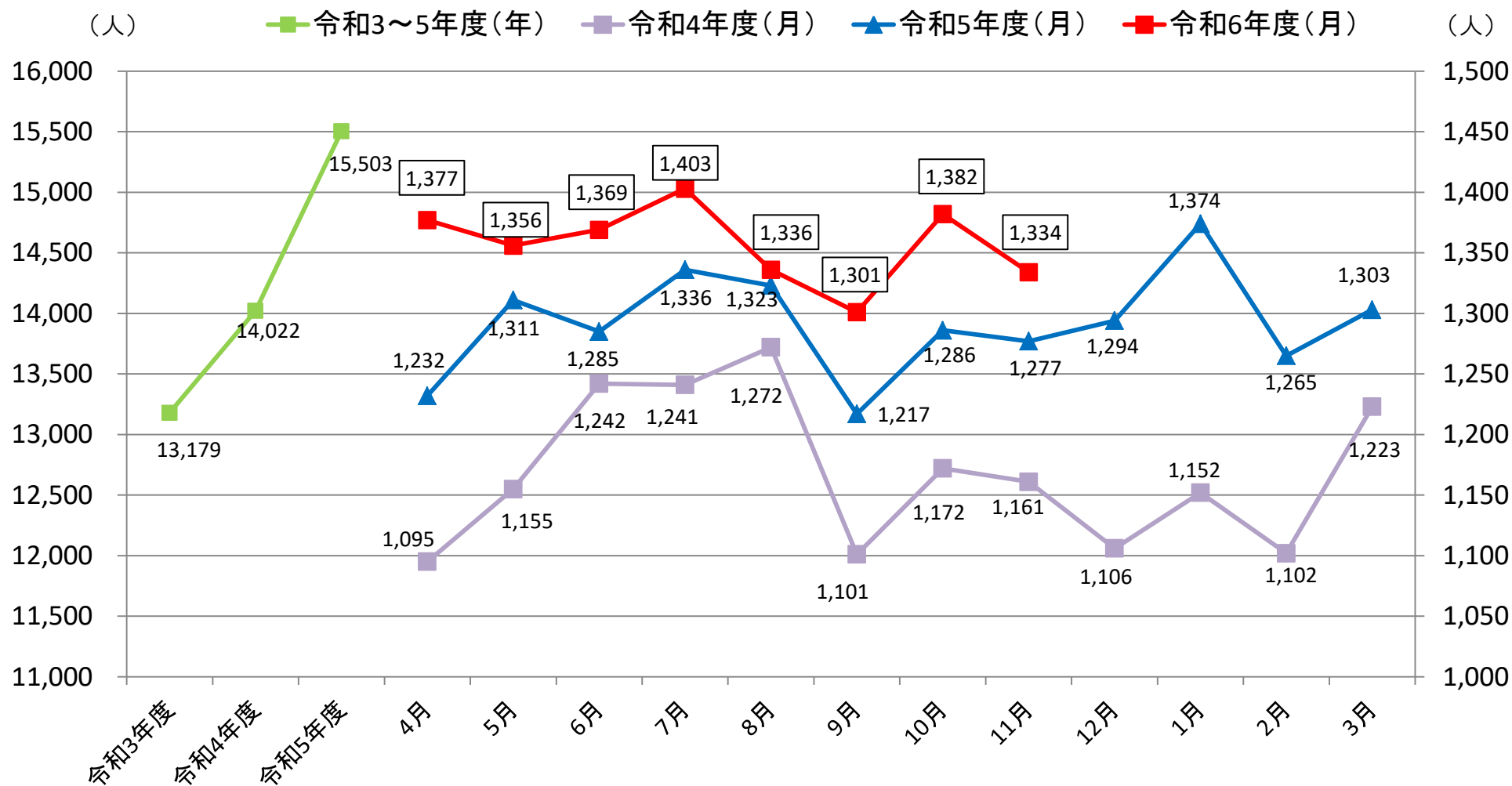


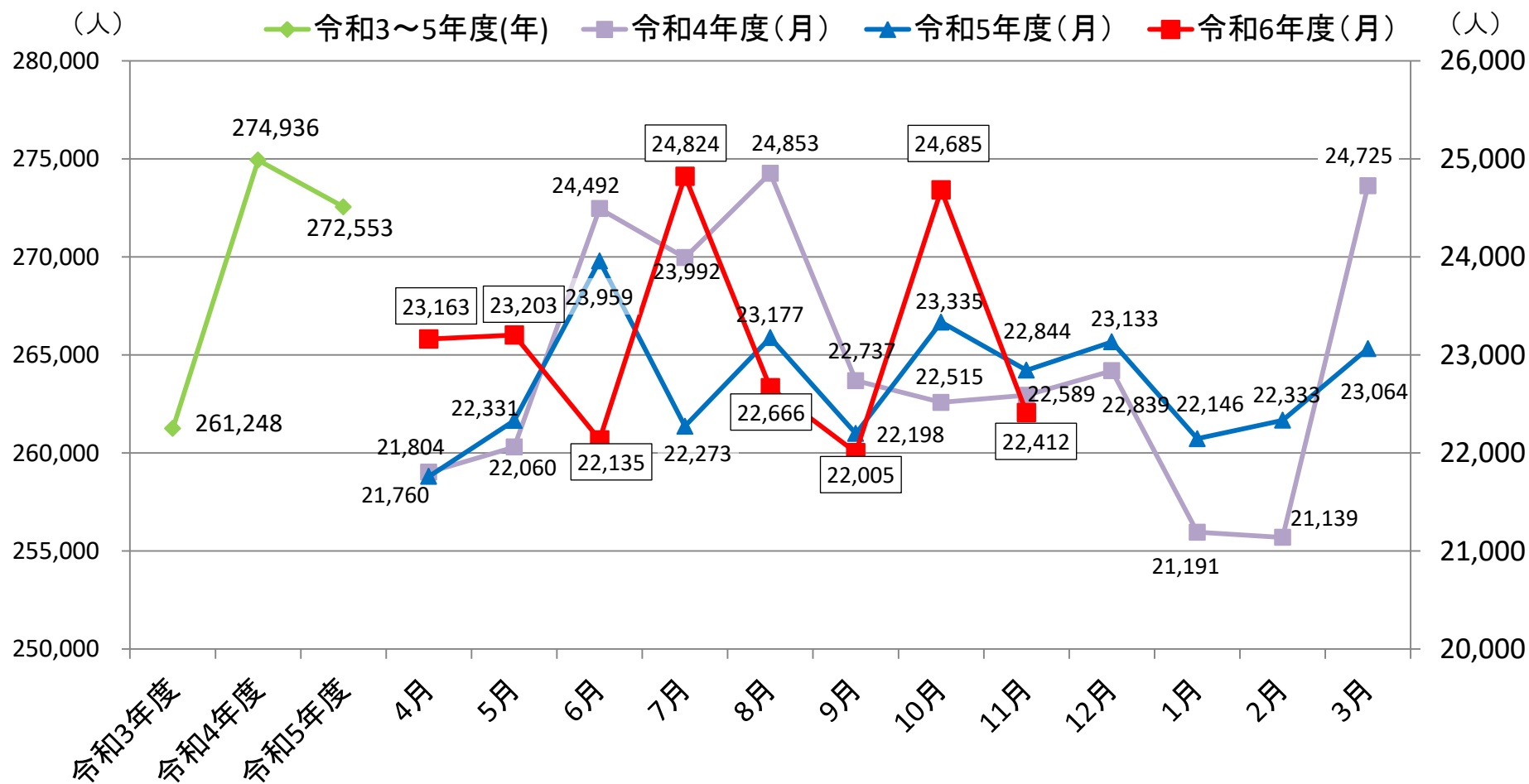
市立豊中病院
令和6年度の取組み状況について

令和6年度 4月～11月事業実績

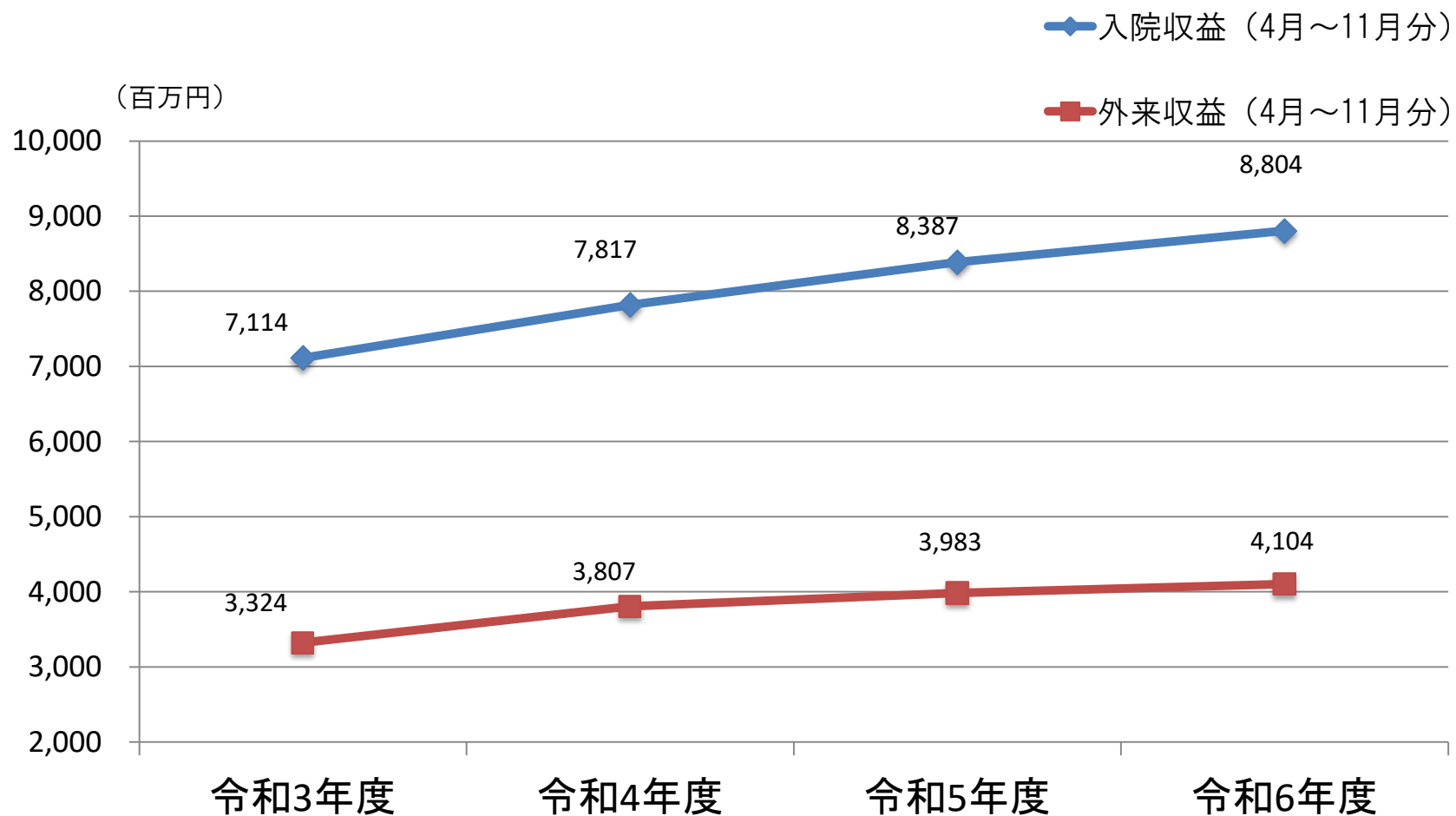
1. 新規入院患者数推移



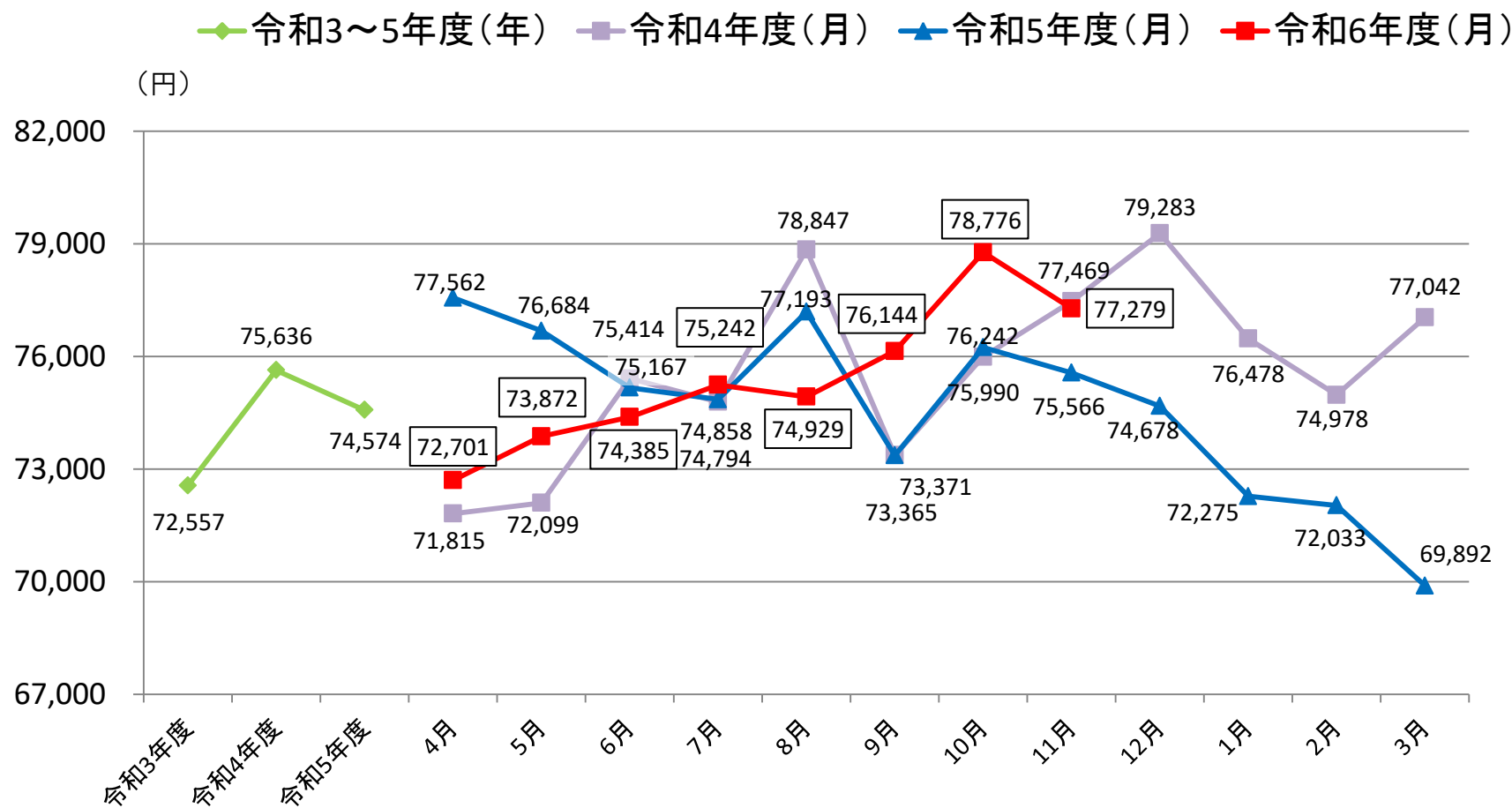
2. 外来患者数推移



3. 入院収益・外来収益推移

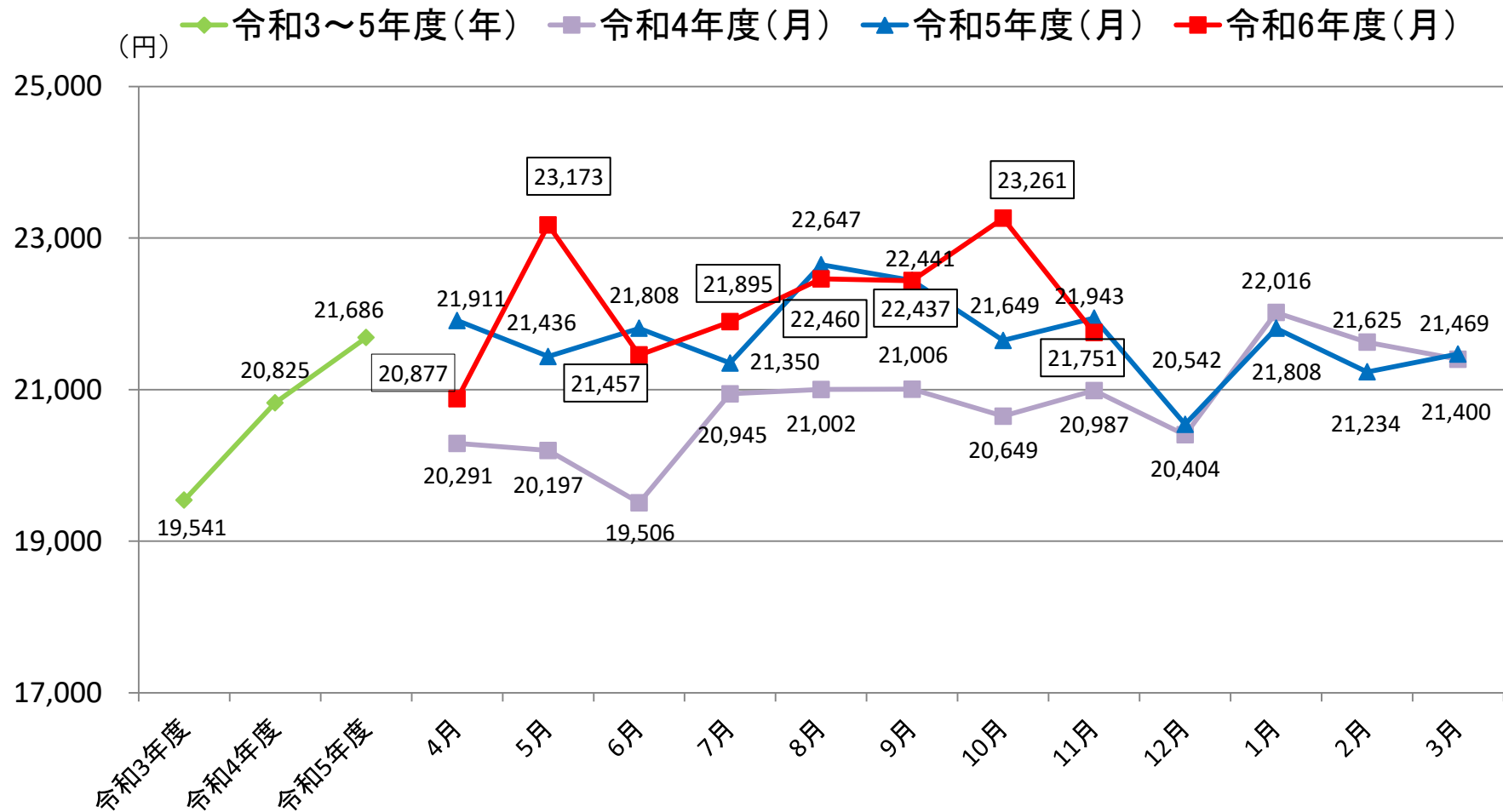


4. 入院単価推移



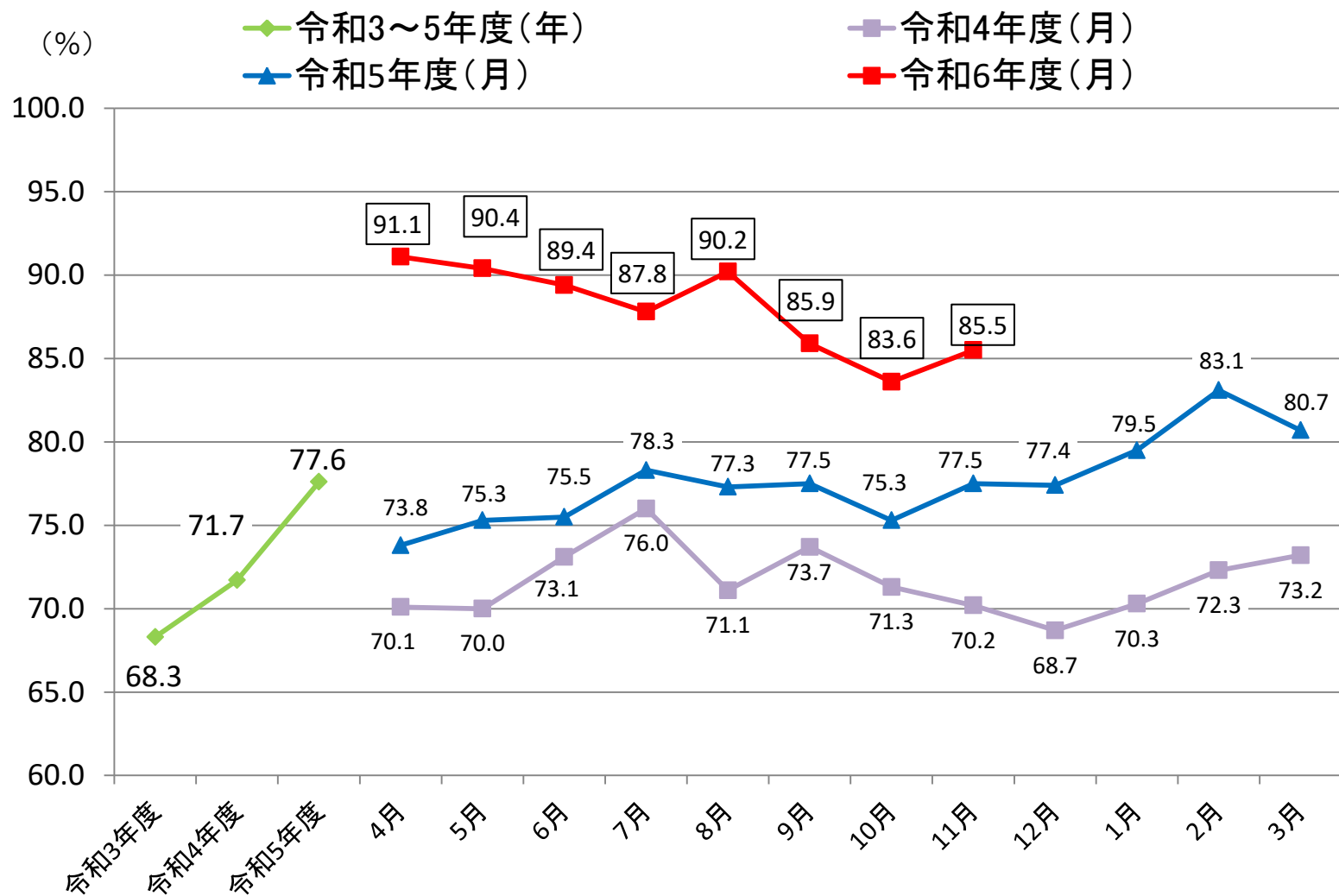
※実オーダーベースにおける1人1日あたりの診療稼動額の推移

5. 外来単価推移



※実オーダーベースにおける1人1日あたりの診療稼動額の推移

6. 病床利用率



※令和6年度4月以降、病床数544床で算定

令和6年度の各種取組みについて

令和6年度の取組状況について(前回報告のその後)

I 急性期医療を中心とした医療機能の充実

① がん診療拠点病院として－外来治療センターの増床－

令和5年度末の特定病床（リハビリテーション病床）50床返還により生じた3階北フロアのスペースに、令和6年5月から外来治療センターを移転して運用を開始しました。スペース拡張に伴って従来の15床から24床に増床しています。

現在のがん薬物療法センターにおける連携だけでなく、5センター（消化器センター、糖尿病センター、脳卒中センター、心臓病センター、地域周産期母子医療センター）とも連携し、がん診療拠点病院として、患者さんに安心・安全な診療をさらにすすめています。

また、患者さんやご家族等に向けて、11月に豊中市内で行われたがん医療市民公開講座において、多職種によるがん治療の取組みと合わせて新しい外来治療センターについて説明を行いました。治療に不安を持つ患者さんに寄り添いながら、当院のがん治療に関わる事柄についてわかりやすい発信を行いました。



新しい外来治療センター



がん医療市民公開講座

② 消防局救急救命士の配置

当院の救急科に豊中市消防局の救急救命士を配置する取組みを試行的に開始しました。これによって、救命士は現場での研修、当院は救急救命士による業務連携が可能となります。

12月末時点で6名の救命士が順に活動を行う中で、院内委員会で課題整理を行い、令和7年度以降の本格運用につなげていきます。



③ 救急診療スペース拡張の検討

特定病床返還後のスペースについては、前述のとおり外来治療センターの増床のための移転先として速やかに活用を始めましたが、これを含めた院内全体での再配置の検討を引き続き行っています。

よりよい診療の提供に向け、スペースを活用して診療部門の再配置や移転を順次行っており、最終的には救急外来診療スペースの拡張を行うことを検討しています。

令和6年度の取組状況について(前回報告のその後)

I 急性期医療を中心とした医療機能の充実

④ DMAT（災害派遣医療チーム）の受入れ訓練の実施

令和6年11月9日、DMATの近畿地方ブロック活動訓練（府内では7年ぶり開催）に参加しました。この訓練は、大阪府内を震源とする大規模地震の発生を想定し、大規模災害への対応能力向上などを目的として実施され、指揮・搬送支援、災害拠点病院との連携等を行いました。



当日は、当院に隣接する大阪大学豊中キャンパスグラウンドで、「ドクターヘリの離発着訓練」が実施されました。



II 地域連携の推進 ・ III 患者サービスの向上

患者サポートセンターと地域連携

令和6年初めに段階的な移転を経て、7月25日に患者サポートセンターを1階正面入り口横にオープンしました。患者サポートセンターは、入院前支援と患者相談窓口という二つの役割を担っています。

入院前支援では、入院が決定した患者さんやご家族と面談し、入院に必要な情報の聞き取りや、入院生活の説明をしています。入院前に情報を把握し、問題解決にむけて早期に取り組むと同時に、退院後までサポートすることを目的に、看護師や薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの専門スタッフが関わっています。

患者相談窓口は、がん相談、療養相談、医療福祉相談、医療の安全相談などを受け付けており、適切な担当者におつなぎしています。患者さんにとってより便利で、相談しやすい環境の提供に努めています。

【参考】令和5年度・6年度相談件数実績（8～11月分）

入院前支援 令和5年度 766件 / 令和6年度 2364件

患者相談窓口 令和5年度 307件 / 令和6年度 1905件



令和6年度の取組状況について(前回報告のその後)

Ⅳ 安定した経営基盤の確立 (収益性の向上に関してはp.8-9参照)

広報活動等

開院80周年の節目でもある令和6年度は、年間を通じて多様な広報活動に取り組みました。「読みたくなる広報」をコンセプトとし、病院だよりの紙面充実だけでなく、ホームページのアクセシビリティ向上のための更新と並行して、80周年記念ページを作成し、定期的な情報発信を行いました。

様々な層への情報発信という観点から、「病院長が語る豊中病院」の動画コンテンツ作成を行い、各種SNSや市内北部・中部・南部の施設で発信を行いました。その他、「脳卒中センター・心臓病センター」「がん医療」をテーマにコンテンツを作成しました。さらに、市内調剤薬局のデジタルサイネージ向けに「おくすり手帳」についてのコンテンツを作成し、薬剤師会と連携しながら情報発信を行っています。

市内の子どもたちに向けては、7月に小学生向け80周年記念イベントを実施し、好評を博しました。また、地域の中学校・高校からの依頼により、当院の専門医が、がん教育の授業を行いました。



小学生向けイベント



がん教育の授業の様子

令和6年度の収支見込みについて

1. 収支状況見込み

税抜: (単位: 百万円)

(1) 病院事業収益		(2) 病院事業費用	
医業収益	13,151	医業費用	12,446
入院収益	8,647	給与費	5,774
外来収益	4,078	材料費	3,958
その他医業収益	426	経費	2,021
医業外収益	890	減価償却費	655
他会計補助金	0	その他	38
他会計負担金	510	医業外費用	83
長期前受金戻入	280	支払利息等	42
その他	100	その他	41
純利益		1,511	

※令和6年度執行想定額(11月末算定基準)			
医業収益	20,155	医業費用	22,220
入院収益	13,207	給与費	11,133
外来収益	6,156	材料費	5,937
その他医業収益	792	経費	3,732
医業外収益	1,871	減価償却費	1,310
他会計補助金	434	その他	108
他会計負担金	585	医業外費用	1,111
長期前受金戻入	559	支払利息等	77
その他	292	その他	1,034
病院事業収益	22,026	病院事業費用	23,330
差引額		△ 1,304	

※項目ごとに四捨五入

2. 経営改善に向けた取り組み

■ 令和6年度の収支見込みと経営改善に向けた方向性

令和6年度収支見込み

現時点で令和6年度収支は純損失の見込みです。

入院収益、外来収益や、新入院患者数はコロナ以降着実に改善しています

様々な取り組みによって収益は毎年度着実に増加しています。令和5年度は入院収益12,812,485千円（令和元年度比109.9%）、外来収益5,882,345千円（同比111.5%）となりました。令和6年度についても、4-11月期比較で令和5年度よりさらに増収となっています。また、新入院患者数については、令和5年度に15,503人（同比97.7%）とほぼコロナ以前の水準まで回復し、令和6年度も引き続き増加を続けています。

費用の増加が、収益の増加を上回っている状況です

医業収益が増加となる一方、病院事業費用も増加しており、費用増をまかなうだけの収益増が得られていない結果となっています。経営改善のためには、物価高騰の影響を可能な限り抑制するとともに、給与費や減価償却費などの固定的な費用と光熱水費・材料費等の変動的な費用に見合った、さらなる収益の増が必要です。



2. 経営改善に向けた取り組み

現状と課題

収益に関する基礎数値は、令和5年度決算状況と比較して概ね向上しています

- ・令和6年度4～11月の主な状況は以下のとおりです。（P.2～6 グラフ参照）
 - ・新規入院患者数：1日あたり44.5人（令和5年度決算42.5人）
 - ・延べ入院患者数：1日あたり479人（令和5年度決算461人）
 - ・病床利用率：88.0%（令和5年度決算77.6%）
 - ・平均在院日数：9.8日（令和5年度決算9.9日）
 - ・入院1日単価：@75,370（令和5年度決算@75,974）

しかしDPCデータを全国同規模病院と比較すると、
「DPCⅡ期超率」と、「入院1日単価」については現状では標準より下位となっています

- ・当院の「新規入院患者数」、「平均在院日数」については全国同規模病院と比較しても上位に位置していますが、「入院1日単価」については、当院における年度比較では改善しているものの、全国でみるとなお下位に位置しています。DPCⅡ期超率（Ⅱ期超症例割合）も同様の状況です。

	上半期対 前年度決算比較	全国同規模病院 ベンチマーク比較
新規入院患者数	○	○
平均在院日数	○	○
1日単価	○	×
病床利用率	○	—
のべ入院患者数	○	—
DPCⅡ期超率	—	×

2. 経営改善に向けた取組み

具体的な取組み状況

○重点ポイントに絞った取組み

注視すべき指標として、現在は入院の「DPCⅡ期超率」を中心に置き、標準的な診療に向けての再確認を進めています。またこれにより、同時に「入院1日単価」の向上も進めます

・市立豊中病院運営計画に記載している取組みに沿って各種改善を進めるとともに、時期によって具体的な重点ポイントを絞り、全院で集中的に取り組んでいます。

- ①令和5年度～令和6年度第1四半期：病床利用率（コロナ対応期間を経て病床稼動が低下していた）
→ 一定の水準を維持できる状態に改善
- ②令和6年度第2四半期以降：①を維持しつつ、DPCⅡ期超率症例の確認と改善
→ 現在取組み中
- ③令和6年度第4四半期半期以降：②と並行して、紹介・逆紹介連携の更なる推進・緊急入院受入の推進
→ 取組み準備中

・各診療科やクリニカルパス委員会において、DPCⅡ期超症例の確認によるクリニカルパスの見直しを進めています。
・当院で必要とする診療以外の要因で入院が長期化することがないよう、今年度より窓口を一元化した患者支援室の機能を活かし、入院決定時から早期介入とスムーズな転院調整を行っています。これにより、適正な地域の医療連携に沿った取組みを進めています。

2. 経営改善に向けた取り組み

○外来に関する取り組み

- ・「紹介受診重点医療機関」として、地域医療機関とより密に連絡をとって紹介・逆紹介を進めます。
- ・症状が安定した患者様について、チラシなどを作成し地域のかかりつけ医との連携についてご理解をいただくよう説明を行っています。
- ・当院がもつ医療機能を必要とする患者様や地域の医療機関の方々に、今まで以上に豊中病院を選んでいただけるよう、顔の見える連携やスムーズな紹介受診のための検討を進めています。

○費用の管理

- ・費用ののびを抑制するため薬品費・材料費の執行状況の確認を行っています。
- ・クリニカルパスの整備により、診療内容の標準化の見直しに取り組んでいます。
- ・令和7年度の電子カルテ更新にあたり、業務フローの見直し等を進めて業務の効率化を行います。
- ・令和7年度の物品物流管理（SPD）業務更新にあたり、運用形態の変更を検討しています。これにより、在庫品に係る購入費用の大幅削減や、スケールメリットによる購入単価の低減等を進めます。

○全職員の意識醸成

- ・病棟別・診療科別の新規入院患者数と退院患者数等の推移などの稼働状況を院内に発信し共有しています。
- ・ベンチマークの結果に基づき、診療科ごとのミーティングで改善内容を検討しています。
- ・院内電子掲示板で経営や保険制度の仕組を情報発信して共有しています。
- ・幹部の意見を院内に伝え、経営に関する危機感と、変革のためにチャレンジする前向きな意識を共有しています。

*物品物流管理（SPD）業務

病院内で使用する医薬品や診療材料などの発注から保管、在庫数管理や各部署への配送を包括的に委託する業務で、膨大で種類也多岐にわたる物品を、必要に応じて適切に供給できるように運用しています。

現在は各種物品を当院が購入して院内の倉庫や各部署で保管していますが、更新後はその大半の保管を病院外に設置されている事業者保有の倉庫で保管します。病院は物品を使用した時点で購入したことになるため、在庫品に係る購入費用が大幅に削減されます。

また、事業者の所有する物品を複数の病院が使用する場合、共通する物品について共同購入によるスケールメリットと同様の効果が得られる見込みがあります。

今後の方向性について

市立豊中病院運営計画に基づいた取組みを引き続き進めます

- ・今後も市立豊中病院運営計画に基づき、小児、周産期や救急など地域を支える政策的な医療については当院の使命として第一に果たしながら、地域の中で、地域の医療機関の皆様とともに、質の高い医療を安定して提供するための取組みを進めます。

市立豊中病院が目指す地域での役割について

- ・当院は31の診療科と544床の一般病床をもつ急性期総合病院として、高い技能を持った医師・看護師・コメディカル等の人的資源、医療機器等の医療資源を有しています。これらは市立豊中病院がもつ特色であり、地域のみなさまの生活を医療の面から支えるために、この独自性をどのようにすれば最大限活かすことができるかを常に考えながら、経営や地域連携、医療の質の改善について取組みを進めます。

なお、診療報酬制度において、当院のようなDPC包括支払制度対象の急性期病院は、その機能や役割に応じて3つに分類され（下記参照）、その中で現在当院は(3)DPC標準病院に指定されていますが、運営計画に基づいた取組みを進める中で、現時点においても(2)DPC特定病院の実績要件に近い状況にあります。

基盤となる経営状況の改善

- ・市立豊中病院運営計画には、経営改善に関する内容も含まれています。経営状況については、令和5年度決算と比較しても収益に関する基礎数値は向上しており、各種取組の成果が現われています。しかし令和6年度の収支見込みにおいては収益の伸びが経費の伸びに追いついていない状況であり、引き続き改善を進めていきます。
- ・経営改善の成果によって黒字化に至るまで、運転資金については大きく減少することがないように財政管理を行っていきます。
- ・市立豊中病院が今後地域の中でその独自性と機能を活かし、将来にわたって地域のみなさまの安心を支えるために、経営基盤の確立をめざして中長期的な経営改善を引き続き進めてまいります。

*DPC対象病院の区分

DPC対象病院は、機能や役割に応じて

- (1) 大学病院本院群
 - (2) DPC特定病院群
 - (3) DPC標準病院群
- の3分類で指定を受けています。（豊中病院は現在（3）DPC標準病院群）

DPC特定病院群とは、大学病院本院以外の施設で「診療密度」「医師研修の実施」「高度な医療技術の実施」「重症患者に対する診療の実施」の4項目の診療実績を評価し、大学病院本院に準じた診療機能を有すると考えられる医療機関です。なおDPC標準病院群の医療機関は、実績値が基準を上回ると自動的にDPC特定病院群に指定されます。